

九州女子大学

人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻

令和3年度 一般推薦選抜・技能特待生選抜

小論文

# 九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻

## 令和三年度 一般推薦選抜・技能特待生選抜

### 小論文 試験問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ネットでたくさん情報を仕入れ、本を読んで知識を蓄えても、それだけで心が強くなることはありません。やはり、生きていくなかで疑問や問題にぶつかったら、自分の頭で考え、解決して前に進む。そうやって幾度も幾度も考えたり体験したりすることによって、人は強くなっていくのではないのでしょうか。

ただし、どういうことを考え、具体的にどんな経験を重ねると心が鍛えられて強くなるというマニユアルはありません。必要なのは、常に自分なりのベストを尽くすことです。

(中略)

仕事や人生にはトラブルがつきものですが、そんなトラブルもまた心を鍛えてくれます。問題が起きたときに逃げたりせず、解決しようと努力をし続けることは、心を強くすることにつながります。

どんなトラブルに対しても真正面から力を尽くして取り組めば、必ず心は鍛えられるのです。

かといって、面倒な問題をいろいろ経験したり、あるいは仕事でベストを尽くして頑張ってきた人が「俺は仕事でさんざん鍛えられた。だから強い」などと思つたら、そこでお終しまいです。強いと思つた時点で夜郎自大やろうじだの自負心となり、その人の心の成長は止まるのです。

そもそも心の強さをはかる目盛りなど、どこにもありません。物理的にここから先の状態は強いとか、これより下は弱いといった尺度は存在しません。心は形もなければ、質量もありません。だからこそ、心を鍛えたり、強くするといったことには際限がない。

ただ心の強さというものは、何かあったときに自分のなかでしっかりした手応えとして感じるものです。

たとえば、それは、納得がいくまで力を尽くして事にあたったときに生まれる、心の強さ。そして、どんな状況においても、平常心を感じられるときではないのでしょうか。

日々、できうる努力はとことんする。そんな繰り返し心が確実に鍛え、強くしてくれることは間違いありません。

出典 丹羽宇一郎『人間の本性(幻冬舎新書五五八)』、幻冬舎、二〇一九年

問一 本文の要旨を五〇字以内で述べなさい。

問二 本文を踏まえ、あなたの考えを五〇〇字以内で述べなさい。

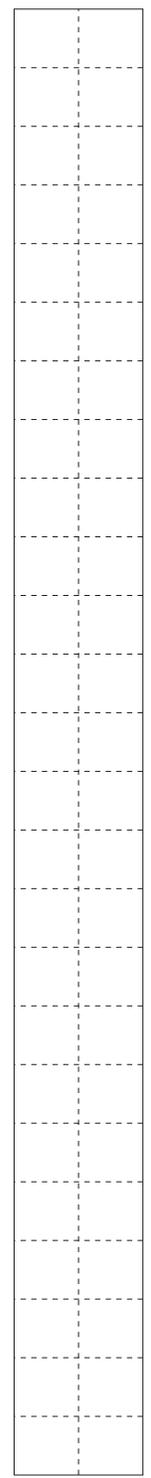


# メモ用紙

(※このメモ用紙はお持ち帰りください)

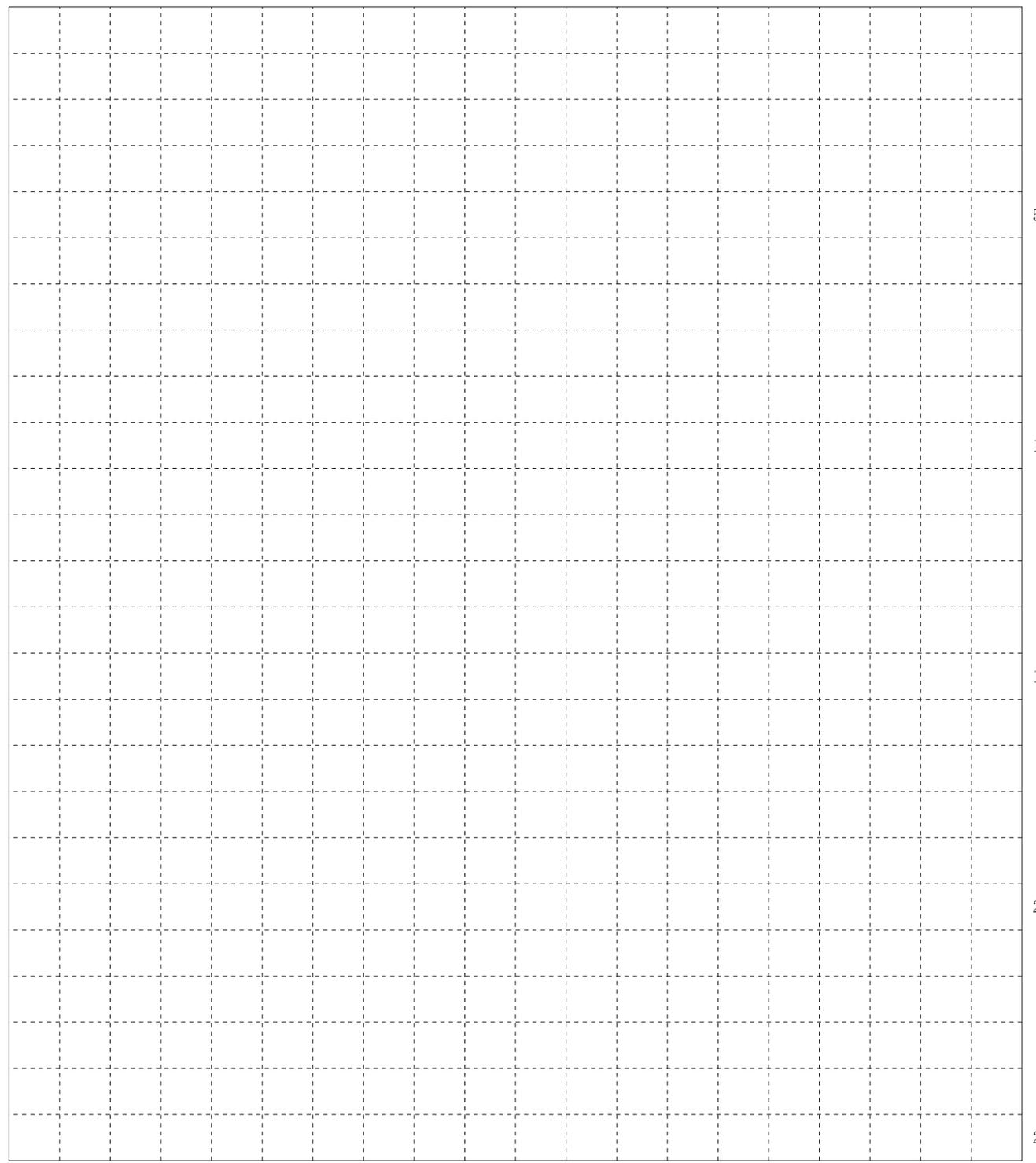
縦書き

問一



A vertical grid for question 1, consisting of 25 rows and 2 columns. The grid is bounded by solid lines on the top, bottom, and left, and a dashed line on the right. The right edge of the grid is labeled with the numbers 5, 10, 15, 20, and 25 at regular intervals.

問二



A large horizontal grid for question 2, consisting of 25 rows and 20 columns. The grid is bounded by solid lines on the top, bottom, and left, and a dashed line on the right. The right edge of the grid is labeled with the numbers 5, 10, 15, 20, and 25 at regular intervals. The bottom edge of the grid is labeled with the numbers 500, 400, 300, 200, and 100 at regular intervals.